

孫文の書:1字ずつ切り取り、縦を横につなげたー修復で新事実 / 宮城

毎日新聞 9月22日(土)11時18分配信

中国国民革命の父とされる孫文が日本亡命時代の1915(大正4)年、吉野作造に贈った横額の書「天下為公」が、本来は縦書きだったことが、所蔵する大崎市古川の吉野作造記念館による修復作業の過程で分かった。字を1字ずつ切り取り、横に並べてつなげたものだった。

現状の書は縦44センチ、横185センチの横額入り。同館によると、切り取った紙片は計11枚。紙片のつなぎ目がかすかにある。落款のある署名の部分も、本来は1行だったものを3行に切り分けたらしい。

字句は、「天下は公(民衆)のもの」を意味し、孫文の座右の銘とされる。孫文は15年6月5日に東京・築地で講演。その後の懇談の席で吉野の求めに応じた孫文がしたためたという。吉野は日本亡命中の中国革命派の活動家を支援していた。

書は06年、吉野の遺族が記念館に寄贈。短期間の公開を経て収蔵庫で保管し、レプリカを展示していた。本物の常設展示を前にした修復で、“新事実”が判明した。

同館は「孫文の書に間違いはなく、縦を横にしても書の価値が下がるわけではない」としている。

修復された書は既に常設展示されており、紙質は黄ばみが取れ、墨字も生き生きとよみがえった。【小原博人】

9月22日朝刊

2012.9.22